

# マツダ 車両実研部 芳村 大さん 平成13年度入学生



今回のOBは、マツダの車両実研部で働いておられる、芳村大さんです。

## 現在のお仕事

車を作るといっても全部一人でできるわけではなくて、いろいろな役割分担があります。

私の部署では、「こういう車を作ります」という風に、企画や設計の人が作ってきたものを評価して、よし悪しを判断するという仕事をしています。具体的な内容としては、  
が、ちゃんと車として成り立っているのかということ

や、人が乗車してでこぼこ道を走った際のことを考え、「ここは良い、悪い」といったことを評価し、判断しています。だめだったら、ここはこういう風にしてくださいと提案したし

## この仕事を選んだきっかけ

今僕はロードスターという車に乗っているのですが、一言で言うとその車に魅かれて、それを作っているマツダを選びました。

マツダじゃなければダメな訳ではなくて、僕はホンダ

用車でスポーツカーのようなものを作っている会社に行きたいなあ、と思っていた。しかしホンダは院卒の人しか採用していなくて、スバルは申し込みの期限が過ぎていました(笑)。

## 今の仕事のやりがい

今入社三年目ですが、これといって、はっきりとやりいと言えぬものはまだありません。

というのも、車両実研部で

は、企画や設計の人が持ってきた案を評価し  
を出しますが、提案をして実際にものができた時に、「これは自分がやってできたものだ」ということが、あまり実感ができないからだと思いません。

ただ、設計さんから「これを見てください」と言われて苦労して評価をして、設計さんにお礼を言われ  
りがいいと言っているのかよく分らないですが、嬉しいですね。

設計さんともめることはありますか？

もめます。でもいい車を作るので、どうかしようとは  
します。

できないものはできないけど、じゃあできない中で何が  
部署も含めて話し合っ解決はしています……それがど  
んどん泥沼化した時はすごく  
しんどいです。

仕事を通じて自分が成長した  
と思うこと

やっぱり、学生の時はまわりも同世代の人ばかりで話も  
だいたい合う人が多いじゃないですか。みんな同じような  
テレビを見たり、同じような  
アイドルを知っていたり。でも、会社に入ると、若い人か  
らお年寄りまでいっぱい  
です。その中でも同じ部署なら、  
普段から一緒にいるのでうまいことやっていけるようになるんですけど、違う部署で  
年も全く違う人なんかは  
づらい部分も

いう中で、人間関係を作っ  
ていけるような力はいったい  
かな  
と思います。

文章を書く力をつけるとか  
言うのは自分の努力だ  
できるけど、人と人とのつな  
がりはこちらのところじゃな  
いと身に付かないし、仕事を  
していく上では一番大切なこ  
とだと思えます。

就職活動はいつ頃から始め  
ましたか？

リクナビに登録して、夏休み

会に行きました。合同説明会と言って、行ったら五、六件の説明を聞けるようなものでした。それとちよこちよこ広島で説明会に行ったりしていました。インターネットで調べられることもできるけど、やっぱり直接話を聞いた方が一番わかります。

**最初から車の会社で働こうと思っていたのですか？**

最初はそうじゃなかったです。車は好きでしたが、情報ともあって、電気メーカーに行きたいと思っていました。プログラミングなんかもしてましたし。

でも、僕は体を動かすことができる職場に行きたいと電気メ

ツを着て、常にパソコンの前に座っているということが嫌でした。実は電気メーカーも何社か受かっていました……。マツダの中でも、設計や企画という部署は全部、紙の上でやる仕事なので、そう

ではない車両実研部を選びました。

**と思うこと**

あえて言うなら、英語の勉強だと思えます。他の会社と共同で開発することもある中で、その時は英語のやりとりも必要になってきます。ある程度翻訳してくれる人もついているので、全員が英語を喋ることが出来る必要はないのですが、英語ができた方が

案をもらって翻訳して、返事を書いてまたそれを英語に直してもらって——というふうにするよりは、案をもらってすぐに自分で返事が書けるとだいぶ違い

英語ができるということ  
は、スキ

されます。海外に工場や子会社のようなものがあれば、そういうところに行くにしても英語はできたほうがいいです。

**職場で、まわりは工学部**

や院卒の人が多い中で、**総科出身**というのはどうですか？

やっぱり、院卒の人なんかは年も離れているし、よく物事を知っています。でも、すごく知識があっても、人と話ができないとどうにもなりません。逆に人と話ができればその人から吸収できるものはいっぱいあり

い  
ば、知識は補うことができる  
と思います。自分ですぐできないことは多いけど、そこはまだ何

できなくて当たり前、くらいの気持ちで何でも挑戦してみ  
るべきです。細かい物理化学の知識があることや、機械とか電気  
の知識があることよりも、大事な  
のはやっぱりやる気と生命力だと思えます。

**総科で受けた授業は役に立っていますか？**

スポーツ科学系は結構受けました。本当にスポーツが好きなので、それはやっぱり自分のものになっていると思います。

**学生に一言やアドバイス**

学校以外でも活動をしてみないと見えてこないことはあると思います。とにかく外に出てみてください

科以外の人との関わり合いはあった方がいいです。総科はやっぱり、やりたいことが決  
多いと思うんですよ。もちろん  
そうでない人もいますが、  
でも他学部は学部をしぼって  
いるだけあって、

学部なら先生になりたいという夢があるなど、もともと何か目標を持っていることがほとんどです。そういう人と一緒にいれば、また違った点が見えてきます。

は、限られた大学生活の中で、  
今という時間を精一杯楽しんで  
ください、ということ  
です。特に就職については心配  
もあるでしょうが、あまり先  
のことを考えすぎても……と  
は思いますね。

# 中国放送 (RCC) 報道記者 藤原佳那子さん 平成15年度入学生



今回のOGは、今年四月に、広島地区唯一のラジオ・テレビ兼営局である中国放送に入社した、報道記者の藤原佳那子さんです。

## 現在のお仕事

私はRCCに一般職で入りました。研修期間は九月までです。五月から六月にかけては、報道センター（ニュースをつくるところ）で、取材に行つて記事を書いてニュースにするまでの仕事をします。

七月からは、ラジオで番組のディレクター研修で、実際の

に放送するまでのものをつくつて、放送するところまでを担当することになっていきます。

**この仕事を選んだ理由、記者になりたいと思つた時期**

叔

んとなく記者に憧れていました。

就活を意識し始めた二年の終わりが三年の頭くらいで、そういう方向で就活してみようかと思つて就職活動を始めました。

**記者になるために大学時代に何か特別なことをしましたか**

就活は、

ました。叔父とよく話をしたり、テレビ局の人など、そういう仕事についている方に話を聞いたりして、自分がやりたいことを明確にする努力をしました。特に「こんな勉強をした」というのはいですね。

**先輩記者から学んだこと**

番組を作つたりニュースを発信したりするた

分が一番新しいものを知つておかなければいけないということ。時間が空いているときはとにかくいろんなこと

**専門外のことについて取材するときに、総合科学部で色々な分野を学んだことが役に立っていますか**

「あつ、なんとなく聞いたことある」ということがありますがね。自分は分からなくても「友達がそんな話をしていました」という手と話したときにちょと似た話題になります。なんとなくでも聞いたことがあると話しやすいです。

**テレビとラジオ**

テレビは二十四時間でローカル局が作れる枠が決まっているんですね。TBSなど東京の大きな局から番組を受けているということがあ

ら、自分たちが作れる枠が決まっています。うちの会社だと自分たちで作る枠を約一九%目標にしている、結構大きいんですけど、それでも出来ることはすごく限られているんですよ。

だけどラジオは、自社製

と言うのですが、自分たちが作っている番組が大体六七%を超えています。だからラジオでは聞いている人にくさん広島の話が伝えられます。そういう意味ではラジオがあるというのは伝えられることが大きいし、自分のやりたいことが出来ます。

**これからの目標**

記者にすぐなれるかどうか分らない

童虐待にすごく興味があつて、そういうことに取り組みたいと思つて入社したんですよ。そういうことであまり話したくない話じゃないですか。「事件が起きてから事件として報道される」のではなくて、事件になる前や終わった

ろに友達  
「思います。」

セージ

間に色々な  
いうことが  
います。大  
でも、映画  
くというの  
な本を讀ん  
もいし、色  
行をするの  
とにかく知  
つでも多く知  
しいです。  
たと、特にそ  
だと思うので  
になったら、人  
かけて、初めて  
で、色々な話  
うな学生生活  
「思います」

桑田 雅美